

自らの学びを正確に捉える力を身に付けさせるために、振り返り場面では、「この時間できるようになったこととその理由を確かめたらよい」という方法を習得させていきました。家族に自分の成長が伝わる発表になったかどうか、2つの理由（友達と協力できたか、家族のことを考えてできたか）の根拠を友達と伝え合う場を設けて、学びを正確に捉えやすくしました。

成長を家族にもっと伝える発表にしよう

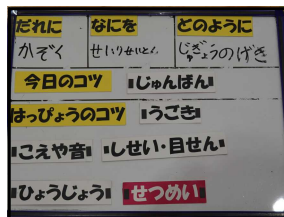
【見通し】

前時を振り返り、自分たちの姿と振り返りの観点の具体を結び付け、学びを正確に捉える方法やその観点について取り組むことで課題解決につながるよさを共有しました。「今日解決したいこつは決まっていますか」と問いかけ、レベルアップボードを基に、班で確認する時間を設け、活動の見通しをもたせました。



【行動】

これまでに達成したこつは何かを各班で確認し、発表練習に取り組みました。その際、自分たちが達成できたかどうかを捉えやすくするために、裏返すと色が変わるこつカードを用いて、ゴールに近づいていることに気付けるようにしました。机間指導の際には、「お家の人が見たい発表になっているか」と問いかけ、相手意識をもって発表を工夫できるようにしました。中盤では、他の班と発表を交流したいか、班での練習時間を続けるかを子供たちが選択できるようにして、交流が必要な班は、必要な班同士で教師がペア班を作って発表を見せ合えるようにしました。終盤では、本時の練習の成果を動画で撮影し、見返せるようにすることで、変容を捉えやすくしました。



【振り返り】

7	まえよれも よいほっぴょうに できた	☹️・😊️・😬️
	ともだちと きょうりょくして できた	◯
	あい手の ことを かんがえて できた	◯

チェックシートに課題解決できたかどうかを三段階で評価した後、「友達と協力できたか」「相手のことを考えてできたか」を四段階で評価しました。その後、友達とそのマークにした理由を伝え合う場を設定することで、本時の活動場面を想起して自分の姿を正確に振り返りやすくしました。



成果と課題

○見通し場面で、前時の子供の姿を紹介し、観点の具体とつなぐことで、課題解決につながる姿を子供たちが意識をしながら活動できた。机間指導の際も、相手意識があるかどうかを問いかけることで見通し場面の手立てが有効に働いた。
 ▲例えば「声や音」のこつは長い紐を用意し、その紐の距離を離れても聞こえるかどうかを判断するなど、本時選んだこつを解決できたかどうかを捉えるための基準となる具体物などがあれば、学びをより正確に捉えることにつながる。